



スポーツの成長産業化を目指します！

令和 6 年度第 1 回

しずおかスポーツ産業ビジョン策定検討会議

日時：12/5（木）15時30分～ 場所：県庁別館9階特別第二会議室

目次

1. しずおかスポーツ産業ビジョン策定検討会議の目的	3
2. しずおかスポーツ産業ビジョン策定検討会議委員一覧	5
3. 第1回議事次第	7
4. 議論の前提情報	9
5. 議論していただきたいポイント	19

1. しずおかスポーツ産業ビジョン策定検討会議の 目的

本会議について

<p>趣旨</p>	<p>国では、「日本再興戦略2016」において、スポーツ産業の市場規模を2015年の5.5兆円から2025年までに15兆円へ拡大することを掲げ、スポーツの成長産業化を推進する施策を実施している。静岡県においても、多くのプロスポーツチームが本拠地を有するとともに、ものづくり産業を中心とした企業の集積が進み、スポーツの成長産業化に向けた条件が整っている。</p> <p>スポーツ産業は様々な分野と関連があることから、市町、民間企業、競技団体およびスポーツチーム等の関係者の意見を踏まえつつ、連携していくことが重要である。</p> <p>静岡県におけるスポーツ産業の市場規模を効果的かつ効率的に拡大させるため、スポーツの成長産業化に向けた施策の方向性や道筋を検討する有識者会議（以下、「会議」という）を開催し、会議の意見を反映させた「しずおかスポーツ産業ビジョン」を策定する。</p>				
<p>本会議の位置付け</p>	<p>本会議は、静岡県スポーツ推進計画において基本方針に掲げる「地域特性を活かしたスポーツによる地域と経済の活性化」のうち「経済の活性化」に関する検討を行う</p>				
<p>検討事項</p>	<p>本会議では、以下大きく3つのテーマに沿って議論・検討を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国における指針及び静岡県における現状の認識の共有 2. 静岡県として10年後に目指すべき姿・方向性 3. 具体的な目標設定、取組内容の検討 				
<p>開催予定</p>	<p>第1回：R6.12.5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ産業における国の指針、県内状況の共有 ・10年後に目指すべき姿 ・施策の方向性 	<p>第2回：R7.1月末頃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPIの設定に向けた方向性 ・具体的な取組内容 	<p>第3回：R7.3月頃</p> <p><ビジョン素案決定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの成長産業化に向けたKPI設定、具体的施策の決定 	<p>パブリックコメント</p>	<p>第4回：R7.7月頃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントを踏まえ、最終版を策定

2. しずおかスポーツ産業ビジョン策定検討会議 委員一覧

多角的かつ専門的知見のある、有識者の方々のご意見をもとに、「しずおかスポーツ産業ビジョン」を策定します。

区分	氏名	所属	専門領域
審議会委員 スポーツ推進	◎村田 真一	静岡大学学術院グローバル共創科学領域准教授	地域スポーツクラブ、ウェルビーイング
	石黒 えみ	亜細亜大学経営学部准教授	スポーツ政策全般、スポーツ人材
	山崎 伊佐子	(株)フジ物産代表取締役社長	スポンサーシップ、セカンドキャリア
	山谷 拓志	静岡ブルーレヴズ(株)代表取締役社長	プロスポーツ経営、スタジアムスポーツ
外部委員	庄司 政史	(株)時之栖代表取締役社長・静岡県スポーツ協会副会長	スポーツツーリズム、地域スポーツ
	鈴木 良則	(一社) 静岡県経営者協会専務理事	企業経営、スポーツと企業の連携
	中村 智浩	(株)静岡銀行執行役員地方創生部長	地域経済、スポーツと企業の連携
	中山 哲郎	(一社)日本スポーツツーリズム推進機構事務局長	スポーツツーリズム
	浜浦 幸光	(株)ジュビロ代表取締役社長	プロスポーツ経営、スタジアムスポーツ
	馬瓜 エブリン	Back Door(株)代表取締役、デンソーアイリス	スタートアップ、デュアルキャリア
	馬瀬 和人	(一財)静岡経済研究所理事長	地域経済
	松永 康太	(株)VELTEXスポーツエンタープライズ代表取締役	プロスポーツ経営、アリーナスポーツ
	山室 晋也	(株)エスパルス代表取締役社長	プロスポーツ経営、スタジアムスポーツ

◎議長

※50音順、敬称略

3. 第1回議事次第

3. 第1回議事次第

第1回しずおか産業ビジョン策定検討会議の概要

第1回有識者会議

日程	<ul style="list-style-type: none">2024年12月5日（木）15時30分～17時
場所	<ul style="list-style-type: none">静岡県庁 別館9階特別第二会議室オンライン（ZOOM）
参加者	<ul style="list-style-type: none">本会議における有識者委員静岡市・浜松市（オブザーバー）事務局（静岡県・EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社）
配布資料	<ul style="list-style-type: none">議事次第会議委員名簿会議運営規則事務局資料出席者一覧・座席表

議事次第

時間	プログラム	備考
1分	開会挨拶	静岡県より
15分	議長、会議委員挨拶	会議委員より一言
8分	事務局より資料説明 ・前提情報の連携 ・議論していただきたい論点の提示	静岡県より
60分	各会議委員発言	各会議委員より
5分	議長よりまとめ	議長より
1分	次回会議について	静岡県より

4. 議論の前提情報

スポーツ庁・経済産業省において、2022年より第2期スポーツ未来開拓会議が行われ、2025年スポーツ市場規模15兆円の新目標について議論を実施中



第2期スポーツ未来開拓会議における議論内容

1 みるスポーツの更なる拡大

- DXの推進
- 国際交流・協力
- 新ビジネスの創出

2 地域スポーツの発展

- スタア整備
- 機会創出
- 地方創生、まちづくり

3 Well-beingの向上

- 共生社会の実現
- 国際競技力の向上

国のスポーツの市場規模拡大に向けた方向性

スポーツの成長産業化に向けた好循環の創出

▶ 少子化が進む中、「みる」スポーツと地域スポーツの好循環によるスポーツ産業の成長を実現する。



他の自治体における取組を踏まえ、本県の施策を検討

みる：【大阪府吹田市】ガンバ大阪

【%】			
4	スポーツを直接現地で観戦した市民の割合	25.4%	▶ 30%
5	ガンバ大阪を応援している市民の割合	39.3%	▶ 45%

<吹田市スポーツ推進計画におけるKPI>



キャラクター
コラボによる
一体感の
創出

- **ガンバ大阪を応援している市民の割合の目標を45%と設定**（令和15年）
- ガンバ大阪のホームタウン活動と連動し、保育園や幼稚園、小学校等へのガンバ大阪コーチの派遣、スタジアムでのボール遊びやサッカー体験等の取組を展開するなど、地域での接点を拡大

する：【沖縄県】空手、【三重県】ゴルフ



- 2016年**沖縄県空手振興課を設置**し、沖縄空手の文化的価値を広く発信、次世代への継承を促進
- 2005年沖縄県議会にて「**空手の日**」の宣言に関する決議案」を可決し、10月25日を「空手の日」として正式に宣言

みえゴルフツーリズム推進協会(MGTA)



- 三重県では2015年から**インバウンド向けゴルフツーリズムを開始**
- デスティネーションプロモーションやタイ・パタヤとの相互交流を実施

みる：【埼玉県】プロスポーツ×地元企業

- **プロスポーツ、企業、大学等が出会うきっかけや交流する場づくり**として「スポーツビジネスネットワーク埼玉」を立ち上げ



<武蔵野ヒートベアーズ×マロードイン大宮のマッチング事例>

- 武蔵野ヒートベアーズ（野球：BCリーグ）×さいたま市内のホテルのマッチングにより、プロ野球選手の講演や交流ができる宿泊プランを展開

「みる」「する」共通：【佐賀県、秋田県、石川県他】

サッカー



バスケットボール



バレーボール



- スポーツ庁のスポーツオープンイノベーション推進事業(SOIP)では、スポーツと他産業の共創による新規事業創出や現在のビジネスモデルの成長・拡大の機会を提供
 - 佐賀県：子どもを取り巻く環境改善を図るための仕組みづくり
 - 熊本県：首都圏の企業を巻き込んだコミュニティ形成
 - 石川県：地域農業との連携を通じて地域の結束強化と、持続可能な社会形成

静岡県においては、県をホームタウンとするスポーツチームが複数あるほか、温暖な気候や自然資源を活用したマリンスポーツやアウトドアスポーツが充実

県内におけるスポーツ資源

①スポーツ団体

Jリーグ（サッカー）



Bリーグ
（バスケットボール）



SVリーグ
（バレーボール）



リーグワン
（ラグビー）



NPB
（野球）



②スポーツ施設

大規模多目的競技場

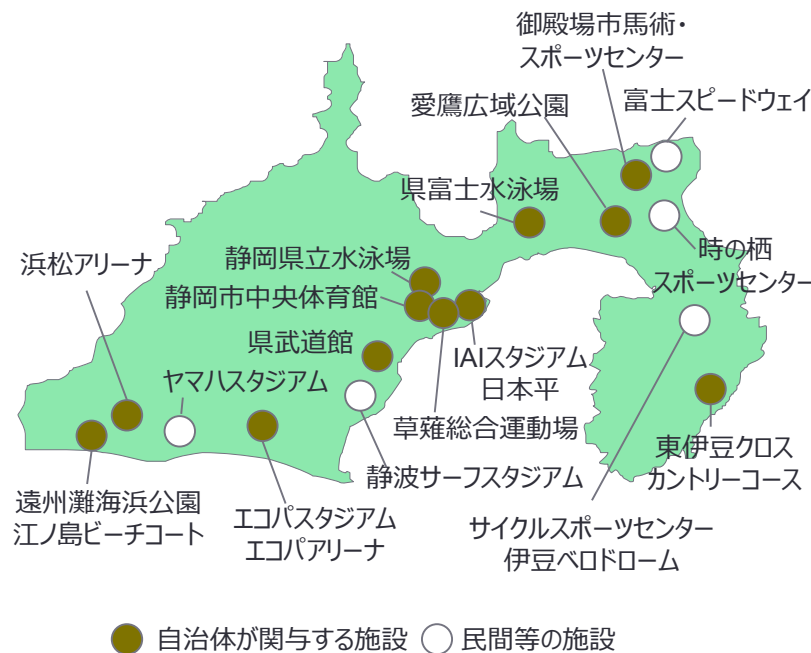


エコパ
スタジアム

特定競技の競技力向上に特化



静波サーフ
スタジアム



③スポーツアクティビティ

合宿施設



時之栖
スポーツセンター

ビーチ・マリンスポーツ



遠州灘
海浜公園

アウトドアスポーツ



太平洋岸
自転車道

モータースポーツ



富士スピード
ウェイ

出所：各施設HP等から引用

静岡県の地域特性や外部環境

静岡県におけるスポーツ産業化に向けた分析

プラス要素

マイナス要素

内部環境

強み Strength

弱み Weakness

- ▶ **プロスポーツチームが集積**
(サッカー、ラグビー、バスケットボール等)
- ▶ **自然資源を活かした**ビーチ・マリンスポーツやアウトドアスポーツが充実
- ▶ 大規模な多目的競技場（スタジアム・アリーナ）、特定の競技の競技力向上を目的とした施設（レーシング場、サーフスタジアムなど）

- ▶ **宿泊者に比べ日帰りの観光客が多い**
- ▶ **人口減少** = 外部へ若者が流出
- ▶ スポーツ実施率の停滞
- ▶ 自動車産業など製造業が占める割合が高く、リーマンショック以降の回復が全国に比べて遅れている
- ▶ 一部スポーツ施設の老朽化が進行
- ▶ 部活動地域移行時の受け皿不足

機会 Opportunity

脅威 Threat

外部環境

- ▶ **新規事業を創出するためのビジネスコンペが官民ともに増加傾向**
- ▶ 新東名全線開通により国内旅行者の利便性向上
- ▶ 外国人観光客からの新たな需要有り
- ▶ 部活動の移行による地域クラブ活性
- ▶ 外部専門人材の教師の活用拡大
- ▶ 大規模スポーツ大会の誘致
- ▶ 健康寿命の延伸による社会保険料削減

- ▶ **他県のスポーツ産業の取組による競争激化**
- ▶ リニア中央新幹線の開業が県内観光に影響を及ぼす可能性
- ▶ 南海トラフ巨大地震発生の可能性
- ▶ パンデミック再来によるスポーツ活動の停滞

国の指針と本県の特性を踏まえた10年後に静岡県の目指すべき姿・方向性




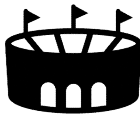
現在	国の指針	静岡県の状況
	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツの成長産業化に向けた好循環の創出 <ul style="list-style-type: none"> ➢「みる」スポーツと地域スポーツの好循環によるスポーツ産業の成長 <ul style="list-style-type: none"> ➢「みる」スポーツ <ul style="list-style-type: none"> ・ファンエンゲージメントの拡大 ・観戦型スポーツツーリズムの拡大 ・データ・映像活用等による競技の魅力向上 ➢地域スポーツ <ul style="list-style-type: none"> ・部活動改革を踏まえた地域スポーツ環境の整備 ・地域・企業内における健康増進へのインセンティブ設計 	<ul style="list-style-type: none"> ○「みる」スポーツ <ul style="list-style-type: none"> ・18のプロスポーツチームが本拠地を有しており、トップカテゴリーの選手や試合に触れる機会が多い ○地域スポーツ <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行時に受け皿となる地域SCや指導者が不足しており、環境整備が必要 ・サーフスタジアムやレーシング場など、他県にはない特別な施設が所在 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり産業を始めとする企業集積が進んでいる ・県事業としてスポーツ×他産業の促進やプロチーム連絡会等を今年度から実施

官民が一体となってスポーツを産業として育成し、地域経済を発展させるための施策を展開


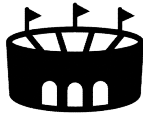




10年後

静岡県の目指すべき姿	施策の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> ○「みる」スポーツと地域スポーツの好循環(国の指針) <ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツチームの魅力向上と収益拡大を推進し、その成果を地域スポーツに還元することでスポーツ産業の持続的発展に向けた好循環を創出する ○地域資源を活かした新しい価値の提供(本県の特性) <ul style="list-style-type: none"> ・県内の様々なスポーツ資源を活用し、他の地域では味わうことのできない特別な体験等、新たなスポーツの価値を提供する ○産業との融合(本県の特性) <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを核として、人・モノ・投資を呼び込み、官民が連携してものづくり産業や第3次産業との融合を推進する 	区分	柱
	“みる” スポーツ	プロスポーツチームとの連携 スタジアム・アリーナ改革への対応
	“みる・する” 共通	スポーツツーリズムの拡大 県内産業との融合による新規事業創出
	“する” スポーツ	地域スポーツの環境整備 スポーツによるwell-Beingの向上
	スポーツを “支える”	アスリートのセカンドキャリア支援 スポーツビジネス人材の育成







スポーツの成長産業化に向けた施策展開（みるスポーツ）

現状・検討の方向性	
全国 (国)	<ul style="list-style-type: none"> 日本のプロスポーツリーグの収益は拡大傾向 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p><Jリーグ> 約1.5倍 2015年 → 2023年 約937億円 約1,445億円</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><Bリーグ> 約3.7倍 2016年 → 2023年 約149億円 約552億円</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> 一方で、欧米等と比べると成長の余地は大きく、スポーツ観戦需要の拡大及び付加価値の創出・向上等が必要
静岡県	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県内の地域・施設をホームとするスポーツチームは18あるが、各チームの認知度や応援している県民の割合は限定的 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ホームとなっている施設（スタジアム・アリーナ）の設備等について、一部施設はリーグが求めているレベルに充足していない
静岡県における成長要素	<ol style="list-style-type: none"> 県内プロスポーツのSNSをフォロワー数の拡大：県内スポーツのファンを拡大 スタジアム・アリーナを核としたまちづくり：多様な世代が集う交流拠点として整備・活用
検討の方向性	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p style="text-align: center;">①プロスポーツチームとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ファンエンゲージメントの拡大 ○スポーツホスピタリティの推進 ○スポーツ・オープンイノベーションの推進 ○チーム間連携による共同プロジェクト </div> <div style="width: 48%;"> <p style="text-align: center;">②スタジアム・アリーナ改革への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スタジアム・アリーナを核とした、まちづくりの促進（民間ノウハウの活用） </div> </div>

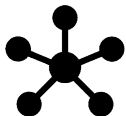



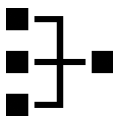

スポーツの成長産業化に向けた施策展開（「みる」「する」共通）

現状・検討の方向性	
全国 (国)	 <ul style="list-style-type: none"> 我が国の強みを生かしたスポーツツーリズムの推進（訪日外国人旅行者の増加や地方への誘客）  <ul style="list-style-type: none"> 観光目的へのスポーツの組み入れ、競技・リーグ横断での連携  <ul style="list-style-type: none"> 地域を含むスポーツイノベーションの取組を引き続き積極的に行っている
静岡県	 <ul style="list-style-type: none"> 首都圏などからの日帰り観光客が多く、長期滞在型の観光が少ない  <ul style="list-style-type: none"> 県外への人口流出  <ul style="list-style-type: none"> 県内のオープンイノベーションを通じたスポーツ産業の新規創出事例の少なさ
静岡県における成長要素	<ol style="list-style-type: none"> 県内資源を活用した新たなスポーツ体験価値の提供：スポーツツーリズムの活性化と県内スポーツの認知度向上に寄与 県内特有の資源とスポーツを組み合わせたビジネス機会の創出：市場規模拡大に加え社会課題の解決にも貢献
検討の方向性	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p style="text-align: center;">③スポーツツーリズムの拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サイクル・武道・ビーチマリン・モータースポーツの活用 </div> <div style="width: 48%;"> <p style="text-align: center;">④県内産業との融合による新規事業創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先端産業創出プロジェクト等とのコラボレーション ○県内に集積する「ものづくり産業」との協業促進 ○革新的技術やアイデアを有するスタートアップの本県への進出促進 </div> </div>

スポーツの成長産業化に向けた施策展開（するスポーツ）

現状・検討の方向性	
全国 (国)	 <ul style="list-style-type: none"> 全世代におけるスポーツ実施率の向上と健康寿命の延伸  <ul style="list-style-type: none"> スポーツ学習・指導の在り方の変革  <ul style="list-style-type: none"> 地域のスポーツ環境の改善
静岡県	 <ul style="list-style-type: none"> スポーツ実施率の停滞 (R5年度の52.3%は全国値とほぼ同水準)  <ul style="list-style-type: none"> 学校体育施設の利用促進、地域スポーツクラブ等の受け皿の不足  <ul style="list-style-type: none"> スポーツ公認指導者数は増加傾向にあるものの、雇用機会の創出に改善の余地があり、障がい者スポーツの指導者についても地域格差がある
静岡県における成長要素	<ol style="list-style-type: none"> 全世代におけるスポーツ実施率の向上：50%強から70%へ 全世代型スポーツ施設の充実化：学校体育施設等の利活用の推進、障がい者スポーツの推進、指導者の確保 青少年における部活動環境の整備：地域スポーツクラブ（実施場所や指導体制）の充実化
検討の方向性	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>⑤地域スポーツの環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域スポーツクラブの収益化モデルの構築 ○職業として地域スポーツを担える環境づくり ○学校をはじめとした地域スポーツ施設の有効活用 </div> <div style="width: 48%;"> <p>⑥スポーツによるWell-beingの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○すべての世代に向けた健康づくりの促進 </div> </div>

スポーツの成長産業化に向けた施策展開（支える）

現状・検討の方向性	
全国 (国)	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <ul style="list-style-type: none"> ・ アスリート引退後のキャリア形成支援の取組がスポーツ界全体として浸透し切れていない </div> <div style="width: 45%;">  <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア形成支援を行う支援者の不足  <ul style="list-style-type: none"> ・ 競技団体の組織運営をマネジメントする人材育成と活用に課題 </div> </div>
静岡県	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <ul style="list-style-type: none"> ・ アスリートが持つ知見を地域で活用できる場が不足 </div> <div style="width: 45%;">  <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツビジネス人材を確保・育成する仕組みが不足  <ul style="list-style-type: none"> ・ するスポーツを支える受け皿となる環境整備と雇用の創出 </div> </div>
静岡県における成長要素	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツチームや様々な自然環境と触れ合う場が多い：チーム運営だけでなくガイドやプログラム運営の機会が多い 2. 静岡県出身トップアスリートの育成と活用：地域での指導やスポーツ関連団体での雇用機会創出
検討の方向性	<p>⑦アスリートのセカンドキャリア支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○蓄積されたスキルを地域で活用できるモデルの構築
	<p>⑧スポーツビジネス人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○経営・指導に関わる人材を確保・育成するシステムの検討

5. 議論していただきたいポイント

「しずおかスポーツ産業ビジョン」の検討にあたって本日議論していただきたいポイント

